

人との繋がり

呂 銘 倫

ドラマ半沢直樹の中にこのような名言がある。「人と人との繋がりだけは大切にせなあかん。ロボットみたいな仕事だけはしたらあかんぞ。」初めて聞いてからずと覚えている。

2019年6月のある日、私はいつもの通り台湾の会社で働いていた。「今日も忙しかっただよね。呂君、何時に退勤するつもりなの？」と残業している課長から質問されたが、私は母からのメッセージをじっと見ていた。「お父さんの悪性リンパ腫が再発した。」私はこのメッセージで十三年前のことを思い出した。

小学校五年生の時に父は悪性リンパ腫と診断された。そして長い間、放射線治療を受けていて、手術も受けたので、二年後父は元気になった。その時の私にとってはそれはあまり厳しい病気ではないと思っただが、父も年を取り、手術と放射線治療のリスクが高くなっているの心配でならない。その週末家に

帰って、父と兄三人で今後のことについて相談した。父は「経営している会社は私がこれまで努力した結晶だからもし興味があれば二人とも金属の知識を学んでこの会社を継いで欲しい。よく考えて返事してくれ。」と言った。その後、今回の診断書を読んだところ悪性腫瘍はあまり大きくなり、治療の必要はないが、定期的な検査が必要ということだった。

ほっとしたけれども会社を継ぐかどうかはまだ迷っていた。今の工業デザイナーの仕事は忙しくても楽しんでいて給料もいい。父の仕事は日本の会社との金属の貿易なので、大学で学んだ知識との関係があまりない。決めかねて課長と相談したところ、その仕事の内容が分からなければ勉強すれば大丈夫、本心に従ったらいいいじゃないか、と言われた。もう五年以上両親と一緒に住んでおらず、父も病気なので心配でならなかった。そして父に帰ってその仕事を継ぐつもりだと返事をした。しかし、父の仕事は日本語が必要だが、その

時私は日本語は全然話せなかった。そのため、日本で日本語を勉強しようとして留学することにしました。

「これらの協力会社は小さく、我が社にとって利益も少ない。けれども、三十年前から我が社と一緒に困難を越えてきたので、これほど重要な仲間はいない。」と会社の元社長は丁寧に教えてくれた。その時の私はただ若くて何も知らない社員だったのでその深い意味はよく分からず、会社は利益を追うべきであると思っていた。ところで、実際にそういう仲間に出会ったら、商売の関係だけでなく、本当の友達である。元の会社を辞めてから、父と一緒に台湾の協力工場を訪ねているうちに、色々な知識だけでなく、人との繋がり的重要性についても認識した。例えば、父の体調を聞くと色々な健康食品をくれるなど、父の努力と協力会社との深い縁がやっと分かった。

日本に来たある日、知り合いと食事をしていいる際に、彼は私が将来父の会社を継ぐのを

知ると、「いい商売があるよ」と誘われた。
利益は前より五パーセント上がるそうだと。し
かし、条件は現在の協力会社との契約を中止
し、その会社と十年の契約をしなければなら
ない。私はすぐに断らずに「このことについ
て私は答えない」とだけ返事をした。その時
心の中に父の言葉が響いていた。「利益は重
要だが人との繋がりはもっと大切だ。」人間は
ロボットではないので感情はとても大事なこ
とだ。協力会社との繋がりから学んだことは
「人を大切すること」。そして、商売を持ちか
けられた際の私は、利益だけに注目すること
はできないことが分かった。私は多分立派な
商人になれないかもしれないが、人との繋が
りを守るという私の流儀を大切にしたい。
台湾に帰ったら両親に心を込めて感謝した
い。そして、日本に来て以来、私は様々な人
に教えてもらった。これも私にとっての繋が
りなので、台湾に帰っても忘れないで感謝し
ずっと大切にしていきたい。